

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 176-0001

所在地 東京都練馬区練馬1-20-2

評価機関名 株式会社 日本生活介護

認証評価機関番号

機構 02 - 015

電話番号 03-3991-8440

代表者氏名 佐藤 義夫

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	齋藤 貴明	経営	H1102028
	②	小田嶋 ひろ子	福祉	H2301098
	③	猪股 久美子	福祉	H2301111
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	駒沢小新BOP学童クラブ			
事業所連絡先	〒	154-0012		
	所在地	世田谷区駒沢2丁目10番6号		
	TEL	03-3424-9993		
事業所代表者氏名	事務局長 山本 福己			
契約日	2025 年 4 月 16 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 7 月 1 日			
利用者調査結果報告日	2025 年 9 月 11 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 6 月 16 日			
自己評価結果報告日	2025 年 9 月 11 日			
訪問調査日	2025 年 9 月 25 日			
評価合議日	2025 年 9 月 25 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査については、アンケート調査を行った。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)子どもが安心して自由に発言でき、意見が大切にされる居場所をめざす。 2)多様な子どもがお互いを尊重し、ともに過ごせるよう支援する。 3)家庭・子どもとのコミュニケーションを大切にし、職員間の連携によってより良い支援に繋げる。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門的な知識と企画力 子どもの発達理解、障害児支援、遊びの支援、安全管理などに関する知識、各種イベントや運営に関する企画力 ・コミュニケーション力と協働性 子どもとの信頼関係を築ける人、子ども同士のトラブルや問題に適切に対応できる力、職員間で円滑な人間関係を保てる人 ・人間性と対応力 子どもの体調や気持ちの変化に気づける観察力、安心できる居場所をつくる温かさや包容力、臨機応変な対応力と行動力 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長を支える責任感(子どもたちの発達段階や個性を理解し、安心できる居場所を提供する) ・保護者との信頼関係の構築(保護者の悩みに寄り添い、家庭との緊密な連携で子育てを支える) ・チームワークと協調性(育成の担い手であることを自覚し、職員同士が連携し、育成方針を共有する) ・子どもの主体性を尊重する支援(遊びや活動を通じて、子どもが自分らしく過ごせる環境を整え、見守る役割を認識する)

調査対象

登録児童全員を対象とした。

調査方法

Webによるアンケート調査は、QRコードを記載した案内文を配布し、回答が直接評価機関に届くようにした。

利用者総数

125

共通評価項目による調査対象者数
 共通評価項目による調査の有効回答者数
 利用者総数に対する回答者割合(%)

アンケート	聞き取り	計
125	0	125
53	0	53
42.4	0.0	42.4

利用者調査全体のコメント

調査対象者125名のうち、53名から回答を得ることができた。
 満足度の高い項目として、「子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか」「病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか」「学童クラブでの活動は楽しく、興味を持てるものとなっているか」「子どもの気持ちを尊重した対応がされているか」「おやつ時間が楽しいひとときになっているか」などがあげられる。
 総合的な満足度では、50名が「大変満足、満足」、3名が「どちらともいえない」と回答している。また、「学童クラブは楽しい」「おやつを量を増やしてほしい」「もっと校庭で遊べると嬉しい」などのコメントがあがっている。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味を持てるものとなっているか	47	6	0	0
47名が「はい」、6名が「どちらともいえない」と回答している。また、「本がたくさんあって楽しい」「友達と遊べて楽しい」「自由に遊べる」「工作の道具やイベントを増やしてもらえると嬉しい」などのコメントがあがっている。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	44	4	1	4
44名が「はい」、4名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「先生は、一緒に遊びたいと声をかけると応えてくれる」「何でも話することができる」「もっと話を聞いてほしい」などのコメントがあがっている。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	44	5	1	3

44名が「はい」、5名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「おやつがおいしい」「友達と話して食べられる、おやつの時間が楽しい」などのコメントがあがっている。

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	24	6	1	22
24名が「はい」、6名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「意見を伝えた際に、先生は否定せずに耳を傾けてくれる」「話し合いをしたことがない」などのコメントがあがっている。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	43	2	3	5
43名が「はい」、2名が「どちらともいえない」、3名が「いいえ」と回答している。また、「初めて行った時にわかりやすく教えてくれた」「先生は、ミーティングルームは勉強する人やいろんな人がいるから大きい声を出さない、ケガにつながることをしない、など教えてくれた」などのコメントがあがっている。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	39	6	6	2
39名が「はい」、6名が「どちらともいえない」、6名が「いいえ」と回答している。また、「遊び道具の置き場所が決まっているので片付けやすくなっていると思う」「汚れた際には友達と協力して片付けることもある」「片付いていない場所がある」などのコメントがあがっている。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	37	9	2	5
37名が「はい」、9名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。また、「先生は言葉遣いに気を配り、優しく声をかけてくれる」「たまに言葉遣いなど気になることがある」などのコメントがあがっている。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	48	1	0	4
48名が「はい」、1名が「どちらともいえない」と回答している。また、「先生は、ケガした時に絆創膏を貼ってくれた」「体調悪い時に助けてくれた」などのコメントがあがっている。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	50	1	0	2
50名が「はい」、1名が「どちらともいえない」と回答している。また、「ケンカなどあると間に入って止めてるのを見かけた」「大丈夫だと思う」などのコメントがあがっている。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	45	6	0	2
45名が「はい」、6名が「どちらともいえない」と回答している。また、「先生は優しい言葉で接してくれる」「やってほしいことを伝えたとき、実現してくれた」などのコメントがあがっている。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	36	3	0	14
36名が「はい」、3名が「どちらともいえない」と回答している。また、「内緒話をしたら、ちゃんと守ってくれると思う」などのコメントがあがっている。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	38	3	0	12
38名が「はい」、3名が「どちらともいえない」と回答している。また、「先生は子どもの間に入って仲直りできるように対応していた」などのコメントがあがっている。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	19	4	5	25
19名が「はい」、4名が「どちらともいえない」、5名が「いいえ」と回答している。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリー1の講評	
	理念や方針の理解を深めるため、職員・保護者双方に向けた取り組みを行っている クラブが目指す理念や方針の理解を深めるため、職員・保護者双方に向けた取り組みを行っている。職員に対しては、年度当初のロングミーティングで年度計画を共有し、方針や重点目標について伝え、ディスカッションもしている。事務局長が資料を作成し、新BOP事業の法的背景や放課後学童クラブ運営指針の改定内容などを説明し、理解を促している。保護者に対しては入会説明会を通じて、新BOP事業の理念や目標を丁寧に説明している。配布するしおりには、運営方針の抜粋や7つの目標、子どもの主体性を尊重する支援方針などを掲載している。	
	職員一人ひとりの役割を明確にし、方向性を理解した上で行動できるようにしている 児童館長や事務局長らは、「新BOPの運営について」に基づき、理念や方針の実現に向けて自らの役割と責任を明確にし、職員に伝えている。適切な支援や安全管理の徹底、地域・学校との連携、職員の服務管理や予算管理、事故報告など、運営全般においてリーダーシップを発揮している。年度初めにはローテーションや役割分担を決定し、職員一人ひとりに周知することで責任の所在を明確にしている。また、日々のミーティングを通じて方針や課題を共有し、職員が方向性を理解したうえで行動できるよう働きかけている。	
	意思決定の手順が定められており、職員や保護者と重要事項を共有している 重要な案件の検討や決定にあたり、明確な手順が定められている。クラブ内でのミーティングや企画会議を経て、児童館長との会議で協議し、最終的に所管課(児童課および地域学校連携課)が判断を行う流れとなっている。決定事項は、日々のミーティングを通じて職員へ周知している。事務局長会議後に改訂された文書なども、速やかに共有している。また、保護者や関係者に対しては、「新BOPだより」や配信システムを活用し、重要事項を適切に伝えている。子どもの活動の様子を写真付きで保護者会や入会案内で紹介するなど、情報発信に努めている。	

カテゴリー2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>多様な手段で保護者や職員の意向や意見を把握し、運営の改善に活かしている</p> <p>クラブでは、保護者会やお迎え時の会話、電話連絡など多様な手段で意見を聞き取り、必要に応じて個人面談も実施している。また、子ども同士のトラブルやけががあった際には丁寧に状況を伝え、必要に応じて保護者同士の話し合いの場を設けるなど、誠実な対応を心がけている。職員の意向についても、始業ミーティング(毎日)や企画会議(月1回)、ロングミーティング(年1回)を通じて把握している。短時間勤務の指導員には事務局長や児童指導が夕方に聞き取りを行い、日誌に記録している。こうして収集した意見を運営の改善に活かしている。</p> <p>地域の現状や行政動向に関する情報を収集し、地域との良好な関係を築いている</p> <p>クラブでは、地域の現状や行政動向を把握するため、弦巻児童館懇談会、連絡協議会、児童館長会報告、事務局長会議などを通じて継続的に情報を収集している。協議会は年2回開催し、クラブの活動報告を行うとともに、地域関係者との意見交換を重ね、学校や地域との連携強化を図っている。地域とは良好な関係を築いており、子どもたちの地域イベントへの参加など、交流が深まっている。また、児童館長会や事務局長会で得た情報はミーティングで共有し、今後の課題や地域ニーズを把握した運営につなげている。</p> <p>区の方向性や理念を踏まえた運営に注力し、計画的な取り組みができるようにしている</p>		

区の課題検討委員会での議論を踏まえて策定された「子ども・若者総合計画」の方向性や理念を、クラブの運営にも反映している。放課後児童クラブ運営指針の改定内容や区の予算措置、当クラブの運営課題を踏まえ、計画的な取り組みを進めている。年間計画には、推進体制や職員の役割分担、活動内容、予算編成などを具体的に明示し、実効性のある運営を図っている。進捗状況は毎月の企画会議等で確認し、必要に応じて見直しを行っている。また、年度末には年間の取組を振り返り、成果と課題を整理することで、次年度以降の計画に反映している。

3 経営における社会的責任			2/2
サブカテゴリ-1 (3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当	
サブカテゴリ-2 (3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当	
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当	
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当	
サブカテゴリ-3 (3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当	
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当	
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当	

カテゴリ3の講評

職員全員が、法令順守や子どもへの適切な関わりができるように努めている

クラブでは、全職員が法令遵守と個人の尊厳を重んじた支援や子どもへの関わりを実践できるよう努めている。会計年度任用職員は全員、初年度に基礎研修を受講し、公務員倫理、情報セキュリティ、個人情報保護などの基本を学んでいる。また、新BOP事務局長会議資料の要点をミーティングで説明し、コンプライアンスや倫理に関する重要事項を定期的に周知している。さらに、他の事業所で不適切な事例が発生した際には、始業ミーティングで共有し、注意喚起を行っている。

子どもや保護者の苦情に対応する仕組みを整備し、職員も日常の言動を振り返っている

クラブでは、子どもや保護者の意向や要望、苦情に対して、児童指導や事務局長らが情報を共有し、速やかに対応する体制を整えている。苦情や要望は児童館またはクラブで受け付けており、深刻な事案は発生していないものの、万一不適切な言動があった場合には、ミーティング等で速やかに共有し再発防止を図っている。職員は人権チェックリストの活用を通して日常の言動を振り返り、相互に確認し合うことで虐待防止の意識を高めている。また、虐待の疑いがある利用者の情報を得た場合には、児童館長への報告や関係機関との連携を図っている。

地域にクラブの取り組みを伝えながら、学生や地域の団体と交流を深めている

クラブでは、新BOPだよりや連絡協議会資料には活動の写真を掲載し、子どもたちの様子や事業内容が伝わるよう工夫している。また、地域団体のイベントや活動に積極的に参加し、相互理解と信頼関係の構築を進めている。近隣大学の学生をプレイングパートナーとして受け入れ、教員・保育士を志望する学生が現場で学ぶ機会を提供している。さらに、コマフェスタや新春昔あそびなど地域イベントへの参加、児童館の懇談会への出席を通じて、地域ボランティアと情報交換を行い、共通課題への協働体制を築いている。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(○○○○●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
○あり ●なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(○○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>けが、熱中症、アレルギー対応を重要課題として位置づけ、事故防止に努めている</p> <p>クラブでは、けが、熱中症、アレルギー対応を重要課題として位置づけ、日々のミーティングでヒヤリハット事例を共有し、再発防止を図っている。特に頭部へのけがなど緊急性の高い場合には、迅速に病院受診を行うようにしている。日々の活動では、新BOP安全対策チェックリストを活用し、開始前・運営中・終了後の各段階で安全確認を実施している。体調不良やけが、保護者対応、トラブル等はすべて日誌に記録し、事故発生報告書には日時、場所、傷病の状況、発生状況、応急処置、保護者対応等を記載して、職員全体で情報共有している。</p> <p>計画的な訓練を積み重ねて職員の対応力を高め、家庭との連携も強化している</p> <p>クラブでは、安全対策マニュアルをもとに、地震・火災・不審者対応などを想定した計画的な訓練を実施している。職員の対応力を高め、訓練後には必ず振り返りを行って課題を明確化している。また、日々のミーティングでリスクマネジメント上の留意事項を共有し、全職員が共通理解のもとに迅速で的確な対応ができるよう努めている。入会説明会や保護者会では、災害時の連絡体制や避難場所、引き渡し手順などについて保護者にも周知を図り、家庭との連携を強化している。これらの取り組みを通じて、子どもの安全を確保できるようにしている。</p> <p>情報管理に関するルールを遵守し、紙文書・電子データともに適切に管理している</p> <p>情報の収集・利用・保管・廃棄に関する明確なルールが定められており、職員が遵守するように徹底している。書類はキャビネット内の保管箱に分類・保管し、保管期限を明記することで、必要なときに迅速に活用できるようにしている。紙文書は施錠管理を徹底し、外部への持ち出しを厳しく制限している。電子データについては、区が支給する認証カードによるアクセス制限を設け、区のネットワーク上で厳重に管理している。これにより、情報の機密性と安全性を確保するとともに、漏えい防止に努めている。また、職員も日頃から細心の注意を払っている。</p>		

5			カテゴリ-5	
5			職員と組織の能力向上	
			サブカテゴリ-1(5-1)	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			11/12	
評価項目1			標準項目	
事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当	
評価項目2			標準項目	
事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			評点(〇●)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○非該当	
○あり ●なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当	
評価項目3			標準項目	
事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当	
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○非該当	
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○非該当	
評価項目4			標準項目	
職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○非該当	
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○非該当	
			サブカテゴリ-2(5-2)	
組織力の向上に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			3/3	
評価項目1			標準項目	
組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		○非該当	

あり なし

3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる

非該当

カテゴリ-5の講評

必要な人材の採用と育成に努めており、実践的なOJTに取り組んでいる

クラブでは、必要な人材の採用と育成に努めている。児童館長と事務局長が随時相談しながら、プレイングパートナー（PP）確保のために近隣大学と連携関係を築き、必要人員の採用を進めている。また、新BOP指導員（会計年度任用職員）の勤務内容や応募資格を区のホームページで公開し、広く人材を募っている。新規配属職員にはベテラン職員を指導担当者として配置し、日々の業務の中で実践的なOJTを行っている。評価においては、児童館長が事務局長に助言を求めたうえで適切な評価を実施し、育成の課題等を明らかにしてその後につなげている。

職員に必要な研修を受講しており、職員間で学びの成果を共有している

クラブでは、区が実施する各種研修への職員の参加を積極的に推進している。職員の経験・希望・スキルに応じて、必要な内容が受講できるように調整している。研修後は、受講者が翌日の始業ミーティングで学びのポイントを報告し、資料を回覧して内容を共有している。アレルギー児童対応研修や基礎研修、運営方針を具体化するための組織づくり研修など、実践的な内容の研修を受講している。一方で、キャリアパスに基づいた個人別の計画的育成は、職員の雇用形態別に検討する必要があると思われ、現時点では常勤の児童指導に限られている。

職員が安心して働くことができるように努め、勤務状況にも配慮している

クラブでは、職員が安心して働き続けられる職場環境づくりに努めている。勤務の様子や聞き取りを通じて心身の健康状態を把握し、必要に応じて個人面談を実施している。職員の不満や要望は児童館長・事務局長・児童指導で共有し、速やかに対応している。超過勤務は原則行わず、業務負担の適正化を図っている。始業ミーティングや企画会議では活発な意見交換を行い、提案を歓迎する風通しの良い雰囲気醸成している。また、若手職員へのメンタルケアにも配慮している。クラブ全体で、チームとして目標達成や課題解決に取り組む体制を整えている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【重要課題】

- ① 伝統的な遊びの体験、体を使った遊びの充実をはかる。(検定や試合、発表の場の設定等)
- ② 活動の中で個別的な配慮、支援をする。(適切な助言・指導)

【具体的な取り組み】

- ① こまフェスタ(R6年11月)、新春昔遊び体験会(R7年1月)に新BOPとしてブースを設けて参加。新BOP児童も多数来場。新BOPイベント(工作、集団遊び)、児童館共催イベント(ドッジボール)の開催。
- ② マンツーマンで指導員を配置(通年)。
小学校、世田谷区子ども家庭支援センター、療育機関等と連携し、多方面からの協力体制のもとで支援を強化(通年)。

【取り組み結果】

②に関しては専門家による支援ですら十分な成果につなげることは容易でない状況であり、居場所としての新BOPの役割をさらに十分認識するとともに、関係機関と連携し複合的な対応を進めていきたい。

【今後の方向性】

多様な子どもがお互いを尊重し、ともに過ごせるよう支援する。児童票提出児童が2名→3名に増えることを受けて、引き続きインクルーシブ教育の向上につながる運営を目指す。

目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

クラブでは、「心身ともに自立した健やかな子どもを育てる」という目標達成のため、上記の2つの方針を掲げ、具体的な取り組みを進めてきた。
 背景として、「①コロナ禍で抑制された「遊び」(特に体を使った遊び)の充実をはかり、子どもたちの健全な育成につなげる」こと、および「②将来的に配慮の必要な児童票提出児童が入所するため、その準備・対応について重点的に取り組む」必要があった。
 具体的な取り組みとして、①については、伝統的な遊びや体を使った遊びの充実を図り、こまフェスタや昔遊び体験会などに参加して交流を深めた。
 ②については、個別支援で指導員のマンツーマン対応や関係機関との連携を行った。成果として一定の効果が見られたが、支援の難しさも明らかになった。今後は多様な子どもが互いを尊重し共に過ごせる環境づくりを進め、インクルーシブ教育の充実を目指すこととしている。
 重要課題の設定→具体的な取り組みの実施→取り組み成果の検証と次年度への反映という、PDCAサイクルに沿った活動が展開されている。

<p>評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p>	
<p>【重要課題】 コミュニケーションを大切にする。(対児童・保護者・職員相互)</p> <p>【具体的な取り組み】 「みんなの声ポスト」を設置し、子どもたちの要望(やりたい遊び・遊具、運営全般など)を新BOP活動に反映(R6年11月～)。</p> <p>【取り組み結果】 まだ試みに活動をスタートさせた段階であるが、子どもたちの発想の豊かさや自主性にしっかりとした手ごたえを感じており、できるだけ多くの子どもたちに意識づけができるよう引き続き重点的に取り組んでいきたい。</p> <p>【今後の方向性】 子育てを支える場所として、家庭・子どもとのコミュニケーションを大切にし、職員間の連携によってより良い支援につなげる。そして、改めて家庭・子どもに寄り添った成育を目指すとともに、職員・PPが働き易い職場づくりに取り組む。</p>	
<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>クラブでは、「心身ともに自立した健やかな子どもを育てる」という目標達成のため、上記の方針を掲げ、具体的な取り組みを進めてきた。背景として、「コロナ禍が終わり、対面でのコミュニケーションが可能になった中で本来新BOP活動に不可欠な「コミュニケーション」の大切さを改めて認識し、成育支援のレベル向上をはかる。特に子どもたちの意見を取り入れて主体性を育む」ことが必要であった。具体的な取り組みとして、子ども・保護者・職員間のコミュニケーションを重視し、「みんなの声ポスト」を設置して子どもの要望を活動に反映し始めた。まだ初期段階だが、子どもたちの自主性や発想の豊かさや手ごたえを感じている。今後は、家庭や子どもに寄り添い、職員間の連携を強化してより良い支援と働きやすい職場づくりを進めていくこととしている。</p> <p>重要課題の設定→具体的な取り組みの実施→取り組み成果の検証と次年度への反映という、PDCAサイクルに沿った活動が展開されている。</p>	

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
	評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		
		評点(〇〇〇〇)	
	評価	標準項目	
	◎あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
	◎あり ○なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
	◎あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	○非該当
	◎あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
	サブカテゴリ1の講評		
	区のホームページや、毎月発行される「新BOPだより」で情報を提供している クラブでは、区役所のホームページを通じて通年で情報を公開している。毎月発行される「新BOPだより」でも、募集案内などを継続的に知らせている。3月には新入生向けの説明会を開催して資料を配布している。出席できなかった方には別日を設け、丁寧に対応している。6月には保護者会を行い、それ以降は希望者との個人面談も実施している。保護者が安心してサービスを理解できるよう配慮されている。面談希望者が少ない傾向にあるが、保護者のニーズに合わせた伝え方やタイミングを見直す余地もあると思われる。今後の検討に期待したい。		
	「こまっこ」では、ひらがなでわかりやすく、イベントの情報を伝えている 各種の申請書類はクラブでも配布しており、希望する保護者に渡している。必要に応じて個別に提出期限の確認を行うなど、保護者の状況に寄り添った対応がなされている。写真を多く使った資料や、モニターを使った説明も行われており、子どもたちの様子やイベントの内容が視覚的にも理解しやすい工夫がされている。また、子ども向けに「こまっこ」が発行され、イベント情報などをひらがなでわかりやすく伝えられている。年齢や理解力に応じた情報提供の配慮が感じられ、子どもや保護者の安心感につながっている。		
	「新BOPだより」は、在籍小学校の児童や地域の関係機関に配布されている 「新BOPだより」は、在籍小学校の児童や近隣の児童館にも配布され、地域の関係機関との情報共有が行われている。連絡協議会ではクラブの様子を詳しく伝えている。就学時健診の後や保育園児の学校見学時には職員がクラブ内を案内をするなど、見学希望にも柔軟に対応している。見学者には、入会資料を配布し、質問も受けている。見学者の記録は日誌に残され、職員間で共有されている。地域とのつながりを大切にしながら、子どもや保護者が安心して関われる場を築いていることがうかがえる。		

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 8/8
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>保護者と子どもが安心してクラブを利用できるよう、細やかな準備をしている</p> <p>クラブでは、3月に入会説明会を開催し、参加できなかった保護者にも後日必ず説明の機会を設けている。配布されるしおりには、区の運営方針や理念、目標が明記されており、育成内容や生活の流れ、持ち物、連絡方法などについても詳細に記されている。利用料や各種手続き、弁当注文や延長利用についても説明がなされており、保護者の理解を促している。説明時には保護者の意向も確認し、気づいたことは記録されている。保護者と子どもが安心してクラブを利用できるよう、細やかな準備が整えられている。</p> <p>新入会児童の環境変化による不安を軽減できるよう、プログラムを工夫している</p> <p>クラブでは、入会時に申請書や台帳などを通じて、子どもの個別事情や要望を把握している。新入会児童には、3年生が案内役となる「ルームツアー」や、工作やゲームを通じた歓迎イベントが行われ、入会初期の不安を和らげる工夫がなされている。1年生には、クラブのルールを少しずつ丁寧に伝えるなど、無理のない関わり方を意識している。アレルギー対応では、保護者との面談を通じて確認表を作成し、双方で共有する体制が整っている。子ども一人ひとりの状況に寄り添いながら、安心して新しい環境に馴染めるよう配慮されている。</p> <p>学童終了後も安心して過ごせるよう、「ゆるやか支援」の案内が行われている</p> <p>卒会を迎える3年生の保護者には、個人面談を通じて自立に向けた支援内容を確認し、学童終了後も安心して過ごせるよう「ゆるやか支援」(夏休みまで弁当持参での利用が可能となる柔軟な仕組み)について案内している。自分のペースで利用できる児童館の案内もしている。また、発達面で配慮が必要な子どもについては、保育園や発達センター、小学校教諭との連携を通じて情報を収集し、環境整備に努めている。子どもが次の生活環境にスムーズに移行できるよう支援し、保護者の不安を軽減する姿勢が丁寧にされている。</p>		

サブカテゴリー3

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

9/10

評価項目1

子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している

評点(○○○●)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
○あり ●なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当

評価項目2

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(○○○)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当

評価項目3

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(○○○)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリー3の講評

令和7年度の育成支援の目標にそって、年計画と行事担当表などを作成している

令和7年度の年間計画と行事担当表が作成され、一覧表として見やすく整理されている。育成支援計画は要配慮児童の増加や運営方針の改正、区の施策などをふまえ、ロングミーティングで背景を確認しながら「育成方針」としてまとめられている。保護者には入会説明会や保護者会で計画の内容について伝えている。子どもの状況に寄り添った計画づくりが意識されているが、障害のある子どもについては、関係機関と連携して対策を検討・実施している。今後は特に療育に関して専門的知見を集約して個別支援に関する統合的な計画の作成が期待される。

子ども一人ひとりの状況を把握し、日々の支援の内容を記録している

クラブでは、新BOP日誌や個別指導記録などを用い、子どもに関する必要な情報を記録している。日々の支援内容、ケガや児童間トラブル、要配慮児童の対応状況などを担当者が丁寧に記載し、週ごとに児童館長へ報告している。特に支援や配慮が必要な児童については職員間で情報を共有し、話し合いを重ねながら支援方針を統一している。気になる事例が生じた場合は、子ども家庭支援センターなど関係機関へ適切に連携している。

始業前のミーティングでは、日誌や個別記録をもとに情報共有が行われている

始業前のミーティングでは、日誌や個別記録をもとに情報共有が行われ、参加できない職員にも申し送りが丁寧に実施されている。記録は新BOP日誌に集約されており、情報の一元化が進んでいる。気になる事例は別紙に記載し、個別記録に反映されている。今後は、電子化による記録の柔軟な活用も視野に入れた改善に期待したい。

サブカテゴリー5	
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重 サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている ○非該当
●あり ○なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している ○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している ○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している ○非該当
●あり ○なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している ○非該当
サブカテゴリー5の講評	
<p>子どもに関する情報を外部と共有する際には、必ず保護者の同意を得ている</p> <p>クラブでは、子どもに関する情報を外部と共有する際には、必ず保護者の同意を得るようにしている。例えば、児童票提出児童について保育園へ聞き取りを行う際には、事前に許可を得ている。また、写真の保存や配布資料への掲載に際しては、児童館長の許可を得たうえで、個人が特定されないように配慮されている。着替えの場面ではユニバーサルトイレや事務室に専用スペースを設け、貸し出し用の衣類も衛生面に配慮されている。個人情報の管理も徹底されており、施錠された書庫やシュレッダーの使用など、細やかな対応がなされている。</p> <p>職員は子ども一人ひとりを尊重し、大人と同様の丁寧な言葉遣いを心がけている</p> <p>日々の援助の中で、職員は子ども一人ひとりを尊重し、大人と同様の丁寧な言葉遣いを心がけている。万が一、子どもの気持ちを傷つけるような言動があった場合には、職員間でミーティングを行い、共有と振り返りを通じて改善に努めている。共有と振り返りを行うことで、職員の意識向上にもつながっており、研修も積極的に受講できるようにしている。子どもと保護者の価値観や生活習慣にも配慮し、個々の背景に寄り添った支援が行われている。子どもの意思や尊厳を大切にする姿勢が感じられる。</p> <p>家庭の方針に応じて柔軟に支援し、子どもの個性を尊重している</p> <p>以前に、家庭の様々な事情を抱える子どもが学童クラブを利用する機会があり、児童相談所と連携しながら、個人情報の管理や里親との関係性への理解など、丁寧な対応がなされた。こうした経験は、今後と同様の受け入れがあった際にも活かされると考えられる。また、家庭によって異なる価値観や指導方針にも柔軟に対応し、子どもがその子らしく過ごせるようにしている。子ども同士のトラブルについても、聞き取りや記録を通じて共有し、必要に応じて保護者や学校とも連携するなど、予防と再発防止に向けた取り組みが継続されている。</p>	

サブカテゴリー6	
6 事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている ○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている ○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している ○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている ○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている ○非該当
サブカテゴリー6の講評	
基本事項や手順を明確にし、業務の統一性と安定したサービス提供をしている クラブでは、世田谷区放課後健全育成事業の運営方針や新BOP運営基準、安全対策マニュアルなどを整備し、サービス提供における基本事項や手順を明確にしている。職員の配置はローテーション表で管理され、遊びのルールも個別に配布されるなど、細部にわたる標準化が図られている。また、業務が定められた手順に沿って行われているかを「チェックリスト」で定期的に確認している。また、職員が疑問を感じた際には手引書を確認するように促している。こうした取り組みが、業務の統一性と安定したサービス提供に寄与している。	
業務内容は、年度途中であっても必要に応じて職員間で話し合い、見直している クラブでは、年度途中であっても必要に応じて業務内容の見直しを行い、職員間で話し合いながら変更点を共有している。保護者からの意見や要望は速やかに確認され、ミーティングで共有されている。また、「みんなの声ポスト」を通じて、子どもたちの声を業務改善のヒントとして取り入れており、遊具の購入や忘れ物置き場の位置変更など、具体的な改善につながっている。また職員は、子どもの学年に合わせた話し方、本人が理解しやすい言葉で話すように気を付けている。こうした姿勢は、子どもとのコミュニケーションを深めることに役立っている。	
業務の標準化に向けて、管轄内の新BOP職員間で情報交換が行われている 業務の標準化に向けて、管轄内のクラブ職員間で情報交換が行われている。年3回程度の実務会議で、様々な取り組みや課題についての共有・検討が行われている。エリア児童館管轄の4新BOPでは事務局長同士がネットワークを構築し、運営に関する情報交流を進めている。また、各クラブの「新BOPだより」や行事結果報告書がデータベースで閲覧可能となっており、必要に応じて参考になっている。こうしたクラブ間での交流や情報共有がさらに進めば、業務水準の向上に大きくつながると期待される。	

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	28 / 29
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している		○非該当
◎あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している		○非該当
◎あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している		○非該当
◎あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>児童台帳等の書類の確認や学校との連携を通じ、子どもの状況を把握して支援している</p> <p>入会申請書や児童台帳を基に子どもの状況を把握し、一人ひとりの発達過程や生活環境など、全体的な姿を把握した上で援助を行っている。学校との良好な関係により、副校長や担任と随時情報交換を行い、通級指導教室の教員とも連携している。必要に応じて、さらに詳細な子どもの情報を保護者の了解のもとで求める仕組みも整っている。日々のミーティングでは、気になる事項を共有し、子どもの行動や様子に注目して支援の方向性を検討している。職員間で多様な支援方法を認め合い、互いにフォローし合う体制が構築されている。</p> <p>集団遊びなど異学年の遊びを通して、子ども同士が互いを尊重し豊かな関係を築いている</p> <p>遊びの場面では、自由遊びに加え、ドッジボールや鬼ごっこなどの集団遊びを通じて異学年交流を促進している。最初は力の差があった1年生も、進級するにつれて強くなっていく。また、上級生は下級生に配慮してボールを弱めに投げるなど、子ども同士の体験の積み重ねにより関係性を尊重した学びがある。さらに、上級生がチーム分けや審判の役割を担うことで、責任感や協調性を育む環境が整っている。これらの経験の積み重ねにより、異学年交流が促進され、子どもは安心して良好な関係を築ける育成支援が実施されている。</p> <p>子どもの気持ちに寄り添い、落ち着ける場所で自分で解決できるよう支援している</p> <p>子ども同士のトラブルに対し、どちらの言い分も聞き、互いの意向を尊重しながら自分で解決する力を育む援助が行われている。感情が高ぶった際には、クールダウンのため事務室や学校の更衣室を活用し、必要に応じて対応する職員を変更するなど工夫して支援している。対応はインカムを通じて職員間で情報共有され、次の行動につなげられる体制が整っている。また、子ども自身が「ざぶとん」をクールダウン用に提案するなど、主体的に落ち着く方法を考える機会が設けられている。子どもの感情に寄り添い、自律的な問題解決力を育む支援が実施されている。</p>			
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		○非該当
◎あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		○非該当
評価項目2の講評			
<p>「ポスト」による提案を通じて、子どもたちが主体的に活動し、成長が促されている</p> <p>ポストによる提案制度を通じて、子どもたちは工作や紙飛行機大会、オセロ大会などの活動を自ら企画している。活動にあたっては、ルール作りやポスターの作成、当日の受付など運営全般を子ども自身が担い、主体的に関わる経験を積み重ねている。職員は材料の準備や活動の支援を行い、子どもが安全かつ自由に取り組める環境を整えている。これらにより、子どもたちの企画力や運営力が育まれるとともに、自ら考え行動する自主性や積極性の向上が見られる。また、子ども同士で協力し合いながら活動を進める中で互いに学び合い、達成感や満足感を得ている。</p> <p>代替案を含むフィードバックにより、子どもと職員の相互理解と交流が深まっている</p> <p>「みんなの声ポスト」の設置により子どもたちから多様な意見や要望が出され、互いに関わり合い学び合う場が確保されている。要望に対しては、実施の可否を含めて丁寧にフィードバックを行うことで、子ども同士や職員とのコミュニケーションが深まり、集団全体の生活が豊かになる工夫となっている。さらに、夏休みイベントの企画運営や集団遊びのルール決定にも子ども主体で取り組む姿が見られ、協調性や責任感が育まれている。これらの実践を通して子どもの成長が促され、子どもが集団活動に主体的に関わっている。</p> <p>「自分のことは自分でできる」を目指せるよう、環境整備や声かけが適切に行われている</p>			

校庭、体育館、BOP室、畳スペース、読書や宿題の場など、多様な遊び・学びの環境が整備されている。子どもたちは自分に合った場所や活動を自由に選び、挑戦することで日常生活の中で成長を実感することができる。職員は、登所・降所時の時間管理や片付け、身支度などに声かけを行い、「自分のことは自分でできる」という基本的な生活習慣の習得を意識して支援している。集団での活動と個々の自立を両立させる取り組みを通して、子どもたちの生活が豊かに展開されるよう実施されている。

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目3の講評		
<p>子どもたちの意見や考えを取り入れ、行事の企画に反映している</p> <p>「ポスト」を活用して遊びや企画の案を募り、おたよりで事前の告知や当日の様子、子どもの成長を伝えることで、子どもたちが行事に意欲的に取り組める環境が整えられている。大人企画の際も子どもたちの意見を取り入れ「どんじゃんけん」というゲームを採用した。特に「ポスト」を通して子どもたちの声を企画に反映させることで、参加意識が高まり、自ら考え行動する主体的な関わりが促されている。企画準備から運営にかかわった子どもたちは目を輝かせ、新鮮な反応を示すとともに達成感を得ており、楽しみながら学びと経験を積む場となっている。</p> <p>イベントを行う際には、子どもの意見を聞き、興味がわくような告知をしている</p> <p>イベントを行う際には、事前に子どもの意見を聞き、興味がわくように告知をして、参加の流れを理解しながら安心して取り組めるようにしている。また、ポストを使って意見を募ることで、自分の考えが活動に反映される経験を通し、意欲や安心感が育まれている。さらに、保護者にはお便りで案内を出し、当日の様子も伝えているため、家庭と学童がつながる環境になっている。終了後に「疲れた」と話す子どもの姿もあり、やり切った喜びや安心して頑張れた実感が見られる。子どもたちは落ち着いて一日の流れをつかみ、興味を持って行事に参加している。</p> <p>行事の成果は家庭にも伝わり、子どもの成長や家庭での関わりに生かされている</p> <p>行事の成果や子どもたちの取り組みの様子は、お迎え時や保護者会を通して保護者に丁寧に伝えられている。また、連絡協議会でも紹介している。さらに、工作イベントでは作品を家庭に持ち帰ることで、家庭での会話や関わりが広がるよう工夫されている。保護者からは「とても喜んでいた」との感想も寄せられ、行事が子どもの成長や家庭でのコミュニケーションに具体的な効果をもたらしていることが確認できる。また、事前の説明や告知、保護者への情報提供にも工夫を重ねることで、保護者の理解と協力を得ながら、円滑に実施できる体制が整っている。</p>		
4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当
●あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	○非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもの意見を大切に、楽しみながら主体的に通うことができる環境を整えている</p> <p>遊びやイベントの内容では、子どもの意見を取り入れ、自分から学童に通う意欲を高める援助が行われている。工作コーナーやレゴブロック、お絵描きなど、活動ごとに場所を分けて子どもが楽しめるよう工夫し、量のスペースも設けて変化をつくっている。学童に来る意味や楽しさ、困ったことへの対応について個別に話を聞き、一人ひとりの主体性や選択を大切にしている。子どもや保護者と一緒に違う選択肢も考え、話し合うことで、子どもが自ら関わる姿勢を育む環境がつけられている。</p> <p>学校と連携し、子どもが落ち着いて見通しを持ち、活動できる環境を整えている</p> <p>自由遊びやおやつタイムなど、決められたタイムテーブルに沿って活動することで、子どもが一日の流れをつかみやすく、見通しをもって過ごせるよう工夫している。また、クールダウンや宿題・勉強のために学校の部屋を借りるなど、新BOPだけでなく学校とも協力して快適な空間を整えている。室内環境についても、大人では気づきにくい点があるのではないかと考え、今後は子どもたちから意見や要望を聞いていく必要性を感じている。学校と連携することで、子どもが落ち着いて自分のペースで活動や学習に取り組める環境が整っている。</p> <p>上級生の経験や様子を伝えながら、子どもの将来の生活を見通した支援を行っている</p> <p>保護者や学校と、子どもの生活を支える情報共有や関係機関との連携が円滑に行われている。新BOPだよりは学童クラブの児童だけでなく、学校を通じて全員に配布され、子どもや保護者に活動の内容や成果を伝えている。学童をやめたいと考える子どもには、理由をしっかりと聞き、個別に話すことで安心感や納得感を持たせている。また、学童クラブ卒後の生活を見据えて上級生の様子や経験を低学年に伝え、理解を促すなど、一人ひとりの成長や学びを意識した先を見通した援助もを行っている。</p>		

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>会議や日常のやり取りを通じ学校や関係者と連携し、安心して過ごせる環境を整えている</p> <p>日々の活動を通して、協力依頼や調整もスムーズに行える関係が築かれている。校長・副校長とは、連絡協議会や学校行事、地域団体の活動を通じて情報交換や共有が行われ、担任とも子どもの日々の様子について相談や伝達ができる体制が整っている。また、主事とは修繕のこと、警備員とは児童の見守りや門の外への脱走防止など、直接の関わりを通して連携が図られている。こうした関係により、学童クラブでの生活が学校での学びや環境と自然につながり、子どもが安心して落ち着いて過ごせる環境となっている。</p> <p>子ども家庭支援センターや児童相談所と協力して、支援の体制を整えている</p> <p>子ども家庭支援センターや児童相談所と情報交換やミーティングを行い、必要に応じて療育機関とも連携している。学校だけでなくさまざまな関係機関と協力しながら、配慮が必要な子どもへの支援が安心して行える体制が整えられている。事例ごとに職員の範囲を制限してプライバシーにも配慮しつつ、職員間で情報を共有し支援につなげている。また、これまでの連携の経験を生かし、今後も協力関係を大切にしながら、子どもが落ち着いて安心して過ごせるよう配慮し、必要な支援が届けられる環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>学校や関係機関と協力しながら、子どもが安心して過ごせるよう支援の体制を整えている</p> <p>担任の先生から具体的な支援のアドバイスを受けることで、学童クラブでの子どもの遊びや活動は落ち着きが見られるようになってきている。帰宅との切り替えもスムーズに行えるようになってきている。また、虐待対応についてはマニュアルに沿って職員間で確認を行い、日ごろの様子を観察したり話を聞いたりして早めの気づきに努めている。日常の観察や情報共有を通して、一人ひとりの子どもに合わせた支援が丁寧に行われている。さらに、学校や関係機関との連携も適切に行われ、学童クラブにおける支援体制を強化している。</p>		
6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りには配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当
評価項目6の講評		
<p>生活リズムに合わせたおやつの工夫と、安全面に配慮した取り組みが進められている</p> <p>おやつ中心の部屋を用意し、子どもが落ち着いて食べられる環境を整えている。帰宅時間ごとに呼び込む工夫により混雑を避け、安心して過ごせるようにしている。また、喫食後の手洗いを徹底し、ジュースや乳酸飲料、持参の水筒などを取り入れることで、子どもにとって楽しみとなるおやつの時間を実現している。下校時間や生活リズムにも配慮し、子ども一人ひとりが無理なく過ごせる工夫が見られる。一方で、遊びに夢中で食べない子や、空腹で早く食べたい子への対応について、より個々に寄り添った柔軟な工夫が望まれる。</p> <p>保護者との連携や成分確認を重ね、丁寧な対応でアレルギー児の安全を守っている</p> <p>アレルギー児への対応は、おやつ入荷時から喫食前後まで複数回にわたり成分チェックを行い、別室での喫食やおやつの持ち出し制限、手洗いの徹底など、細やかな配慮がなされている。入所時には保護者と十分に確認を行い、毎月成分表と一緒に見直すなど、家庭と協力しながら安全を守る姿勢が見られる。エピペンをランドセルや指定のロッカーに保管する体制も整えられており、緊急時への備えもマニュアル等で示されている。全体を通して、子どもの命を守るために丁寧で多重なチェックが実践されており、職員の意識の高さと安心できる体制が築かれている。</p> <p>手洗いや自己申告など生活習慣を大切にしながら、子どもが安心しておやつを楽しめる</p> <p>クラブでは、おやつを「楽しみのひとつ」として位置づけている。基本的な生活習慣の場として、手洗いやハンカチの持参なども指導しており、衛生面への意識を育んでいる。おやつの際には、自分の名前を伝えて確認することで自己管理の力を育て、食べない場合も自己申告を促している。部屋の広さに応じて16人程度のグループで食べることで、落ち着いたアットホームな雰囲気が保たれている。子どもはトレイから自分でおやつを選び、安全を最優先に楽しむことができ、一人ひとりのペースや意思を尊重した配慮がなされている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>衛生習慣や感染予防の工夫により、子どもが自分で健康を意識できる支援が行われている</p> <p>おやつ前の手洗いチェックや区の看護師による「手洗いチェッカー」の実施は、子どもが衛生習慣を自然に意識できる工夫である。職員は手洗いの習慣化や感染予防の声かけを丁寧に行い、子ども自身の健康意識を育む支援をしている。また、水分補給にも留意し、校庭や体育館での遊びや帰宅前のタイミングを計って子どもたちに促している。各部屋の担当職員は子どもたちの顔色などに注意を払い、適切な対応に努めている。また、ミーティングでの事例共有により、感染やけがのリスクに迅速に対応できる体制が整えられている。</p> <p>アレルギー対応や個別配慮を通じ、子どもが安心して過ごせる安全な支援が行われている</p> <p>アレルギー対応をはじめ、配慮が必要な児童への個別支援が実践されている。広範囲のアレルギー対応や他学童での頭部のけがに関する注意喚起など、児童の特性や安全リスクを把握したうえで、マンツーマンで職員を配置するなど個別配慮が行われている。これにより、危害行為による事故防止や安全確保が図られ、一人ひとりの状況に応じた適切な援助が実施されている。職員は子どもの行動における傾向を日常的に把握し、安全意識を高める支援を継続している。また、医療的ケアが必要な場合は、看護師の支援を受けられる仕組みが整っている。</p> <p>専門機関や保護者と連携し、子どもの健康管理や安全への配慮を行っている</p> <p>区の看護師訪問など専門職の支援を活用しつつ、日々の健康管理や事故防止に取り組んでいる。事例やヒヤリハットの情報はミーティングで職員間に共有され、発生経路の確認や迅速な対応、保護者への報告が徹底されている。特に、配慮が必要な子どもについては、保護者とともに配慮が必要な点や、具体的な支援内容を共有することで、家庭とクラブ双方で安全を守る体制が整備されている。また、帰宅時の安全確保として見送りや落ち着く時間の確保、必要に応じたお迎え依頼など、きめ細やかな工夫も行われている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
○あり ●なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>「新BOPだより」や保護者会で、保護者との共通認識を育んでいる</p> <p>職員は、子どものケガなどの際には経緯を含めて丁寧に説明し、伝えにくい内容ほど早めに誠実に伝えるよう心がけている。また、「新BOPだより」や保護者会では、イベントの様子や子どもたちの姿を写真付きで紹介し、保護者との共通認識を育んでいる。お迎え時には指導員と保護者が気さくに会話を交わす場面も見られ、距離感を縮めるように努めている。小学校など関係機関との情報共有も行われており、保護者支援に活かされている。</p> <p>保護者の就労状況や家庭の事情に配慮した支援が行われている</p> <p>保護者の就労状況や家庭の事情に配慮した支援が行われ、連絡手段も勤務先や住所などを考慮して電話で丁寧に対応している。こうした姿勢は、保護者の生活背景に寄り添いながら、安心して子どもを預けられる環境づくりにつながっている。一方で、保護者同士の交流機会については、保護者会やお迎え時の自然な関わり任せられており、意図的な交流の場は設けていない。今後は、保護者同士が気軽に話せるような雰囲気づくりに努めるなど、保護者間のつながりを深めていくことに期待したい。</p> <p>子どもの出欠や早退の時間の確認ができない場合は、保護者への確認を徹底している</p> <p>来所していない子どもの出欠確認については、まず学校に確認し、その後保護者へ確認している。まれに自宅に帰宅しているケースもあるため、柔軟かつ迅速な対応に努めている。また、一人帰りの時刻が事前の情報と異なる場合には、保護者への確認を徹底するなど、安全確保に向けた協力体制が築かれている。こうした日々の細やかな対応は、保護者の安心感につながり、子どもを預けるうえでの信頼の基盤となっている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>地域住民からの協力や実習生の受入れなど、子どもにとって豊かな体験の機会がある</p> <p>クラブでは、地域の児童館を通じて地域の方から提供された竹を使い、七夕の時期に子どもたちが笹に飾り付けをする体験を毎年行っている。また、連絡協議会にて行事やイベントの情報発信を行うほか、毎月「新BOPだより」を関係団体や委員に送付するなど、地域との情報共有も継続的に行われている。さらに、児童館では中学生の職場体験や保健・医療系の実習生を受け入れており、クラブでも実習の場を提供している。こうした取り組みにより、地域の資源を活かしながら、子どもたちに豊かな体験の機会を提供している。</p> <p>子どもたちが、地域社会とのつながりを実感できる環境が整えられている</p> <p>地域のスポーツ文化クラブや、青少年地区委員会が主催するイベントに積極的に参加している。クラブの子どもたちは、羽根つき、竹馬、卓球、餅つきなど、日常では体験しづらい遊びを通じて地域の方々と交流している。また、近隣の福祉職志望の学生がブレイングパートナーとして関わっており、若者との関わりも子どもたちの社会的経験を豊かにしている。地域行事への参加と人的資源の活用により、子どもたちが地域社会とのつながりを実感できる環境が整えられている。</p> <p>地域団体と連携し、イベント等で一緒に活動できるようにしている</p> <p>クラブでは、地域団体との協力を大切にしながら、イベント等で一緒に活動できる場を積極的に作っている。地域資源の活用や行事への参加、情報発信などを通じて、子どもたちは、さまざまな人と関わる経験を重ねている。実習生の受け入れなども含め、地域との関係づくりが継続的に行われている。単発的な交流に留まらず、子どもたちの生活の中に地域とのつながりが自然に根付いている様子がうかがえる。今後も、地域団体との協働の可能性を探りながら、子どもたちの生活の幅を広げる取り組みを継続していくことに期待したい。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	3-3-1	透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる
タイトル①	様々な取り組みにより、地域の関係者や関係機関との連携を深めている	
内容①	<p>クラブでは、弦巻児童館懇談会、連絡協議会、児童館長会報告などを通じて関係機関と連携を図っている。協議会は年2回開催し、クラブの活動報告を行うとともに、地域関係者との意見交換を重ね、学校や地域との連携強化を図っている。地域とは良好な関係を築いており、要配慮児へのボランティア支援や、子どもたちの地域イベントへの参加など、交流が深まっている。さらに、近隣大学の学生をプレイングパートナーとして受け入れ、教員・保育士を志望する学生が現場で学ぶ機会を提供している。こうした様々な取り組みにより、地域との交流を深めている。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-3-3	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している
タイトル②	子どもに関する必要な情報を、職員間で丁寧に共有する体制が整えられている	
内容②	<p>クラブでは、子どもに関する必要な情報を、職員間で丁寧に共有する体制が整えられている。始業時のミーティングや月1回のロングミーティング、企画会議など、複数の場を通じて情報交換が行われている。重要事項は資料を回覧し、業務中にも確認できる仕組みがある。ミーティングに参加していない短時間・臨時職員にも内容を伝えており、全職員が確実に情報を把握できるようにしている。日誌への記録や、口頭で閲覧を促すことも含め、職員間での情報共有を徹底している。こうした取り組みにより、チームとして効果的な活動ができるように努めている。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している
タイトル③	子どもに寄り添った支援を行い、要配慮児が安心して過ごせる場を提供している	
内容③	<p>子どもの状況を日誌や各種書類で把握し、ミーティング等職員間で情報を共有しながら支援に生かしている。日々の育成では、子どもに寄り添ったマンツーマン対応や全体での見守りを組み合わせ、個別担当職員やその日のリーダーと連携しつつ、遊ぶ場所や時間も工夫している。支援方法はミーティングで確認され、職員一人ひとりが子どもにとってより良い対応を考えている。また、巡回指導や学校担任との情報交換を通じ、子どもが安心して落ち着いて過ごせる環境を整えている。こうした取り組みにより、要配慮児に対するきめ細やかな支援が実践されている。</p>	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	児童館長や事務局長らが、新BOP事業の理念や方針に関する理解を深め、適切な運営ができるようにリーダーシップを発揮している
	内容	クラブが目指す理念や方針に関する職員の理解を深めるため、年度当初のロングミーティングで年度計画を共有し、方針や重点目標について伝えている。事務局長が資料を作成し、新BOP事業の法的背景や放課後学童クラブ運営指針の改定内容などを説明している。さらに、児童館長や事務局長らは、「新BOPの運営について」に基づき、理念や方針の実現に向け、職員間の役割分担などを検討し、明示している。適切な支援や安全管理の徹底、地域・学校との連携、職員の服務管理や予算管理、事故報告など、運営全般においてリーダーシップを発揮している。
2	タイトル	幅広い年齢層のスタッフが特性や経験を生かし、工作やスポーツなど多様な遊びを提供し、子どもが充実して過ごせる環境となっている
	内容	学校と日常的に連携が取れており、校庭や体育館などの施設を利用できる環境が整っている。スタッフは大学生から主婦・シニアまで幅広い年齢層で構成され、局長・児童指導・指導員・PPなど職種がそれぞれの役割を分担し、子どもの成育支援に当たっている。各スタッフは自身の特性や経験を生かし、工作、スポーツ、音楽、伝承遊び(けん玉・コマ・お手玉等)など多様な遊びを提供している。このことにより、子どもは幅広い活動を体験でき、遊びの充実度が高まっている。スタッフの構成やキャリア・特性を活用した遊びの多様性は、大きな強みである。
3	タイトル	子どもたちが地域の子どもや大人と交流できるイベントに積極的に参加し、非日常の体験を積みながら、子どもたちの成長につながっている
	内容	クラブでは地域とのつながりを大切にし、子どもたちが地域の子どもや大人と交流できるイベントに積極的に参加している。児童館との合同行事や地域のスポーツ・文化クラブ主催の活動への参加、さらには出店やお手伝いを通じた関わりなど、多様な形で地域との接点が築かれている。イベント中に、入会について保護者から相談を受けるケースもあり、活動を知ってもらう機会にもなっている。こうした非日常体験は子どもたちの成長を促すとともに、地域住民との交流や情報交換を促進しており、地域におけるクラブの存在感も増している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員間で「子どもの声」ポストの運用について話し合い、常設化することで、子どもの意見・意向が大切にされる場となることが望まれる
	内容	子どもが自由に発言できるように設置したポストを通じて、テーマに沿った意見や自主的な企画が寄せられ、子どもの主体性が育まれている。一方で、ポストの常設化にあたっては、記名の扱いや子どもの意見をどのように受け止め、運営に反映するかといった点について、職員間でのすり合わせが課題となっている。今後は、これらの点を丁寧に話し合いながら、テーマを工夫しつつ意見を取り入れる仕組みを整えることで、ポストの常設化が実現し、子どもが安心して思いを伝えられるようになり、区の7つの目標に沿った活動へとつながることが期待される。
2	タイトル	「こまっこ」において、子どもの描いた挿絵やクイズ形式のコーナーを取り入れるなど、子どもがより関わっていくことが期待される
	内容	クラブでは、イベントの様子を写真付きで「新BOPだより」や保護者会資料などに掲載し、子どもの姿をわかりやすく伝える工夫がされている。また、子ども向けの「こまっこ」も発行されており、イベント情報や注意事項を親しみやすく紹介している。今後は、子どもの描いた挿絵やクイズ形式のコーナーなど、子ども自身が関われる発信の場をさらに広げることが期待される。子どもの力を活かしながら、クラブの活動をより積極的に発信していく取り組みに期待したい。
3	タイトル	指導員の採用と育成は、新BOP事業を継続する上での重要課題であり、区との連携の下、改善に向けた検討を進めていくことに期待したい
	内容	指導員の採用と育成は、新BOP事業を継続する上での重要課題といえる。区の正規職員である児童指導の場合は制度が整っているが、会計年度任用職員についてはキャリア形成や育成の仕組みが未整備であり、長期的視点での改善が求められる。今後、指導員の高齢化が進むとともに、社会全体で新規採用の困難が増していることを考慮すると、指導員の採用・処遇・キャリア形成のあり方を再検討していくことも必要と思われる。区との連携の下、それらの課題を検討し、指導員の安定的な採用・育成と持続的な事業運営につなげていくことが期待される。